

# 高知県感染症発生動向調査（月報）

2020年5月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

## 全国情報

第19週(5月4日～)から第22週(～5月31日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における5月の上位6疾患の合計は8.96で4月の4週間換算値13.45と比べて減少した。その理由は、新型コロナウイルス感染症を恐れての自粛や衛生管理によると思われる。実際に上位6疾患のうち、突発性発疹以外は全て減少した。

1位は感染性胃腸炎で4.27(4月1位4週間換算値5.75)、2位がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.09(同2位4.22)といずれも減少した。3位が突発性発疹で1.41(同3位1.33)と横ばいだった。4位は流行性角結膜炎で0.53(同4位0.78)、5位6位が同数0.33で咽頭結膜熱(同7位0.55)、水痘(同6位0.59)が並び、ともに前月よりも減少した。

### 〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

パンデミックのインパクトは、保健・医療から経済・社会へと移ってきた感があるが、実際の患者数はどうであろうか。

3月11日/4月7日/5月11日/6月2日と約1か月間隔でみていくと、世界の患者数は12万人/130万人/400万人/620万人、死亡者が4,611人/73,648人/281,312人/374,527と増加しており、その拡がり発展途上国や南半球に及んできたので、その判断には統計の正確性がどうかについて留意が必要である。日本の患者数は568人/3,906人/15,798人/16,930人、死亡者が12人/80人/621人/894人と推移し、増加に歯止めがかかってきた。当面の爆発的感染拡大(オーバーシュート)や医療崩壊の危機は回避できそうな展望である。

先進諸国のなかで日本は際だって死亡者数が少なかった理由を山中伸弥博士はファクターXと名付けた。明らかにすべく、引き続きふりかえりや考察を続ける必要があるだろう。

しかし、まだ、東京では接待を伴う飲食店などいわゆる歓楽街での感染が止まらず、感染源がくすぶっている。北九州市や北海道での患者発生も無視できない。再び感染拡大に火がつく可能性が潜在しており、三密回避の励行や新しい生活様式の模索は続けていく必要がある。

### 〈風疹〉

2018年からの風疹流行がようやく終息しそうである。風疹は2018年に累積で2,941例、2019年には2,306例が報告された。2020年第11週までの報告数は69人で、第12～16週に7人、第17～19週に1人とどまった。コロナ自粛の副産物であったろう。予防接種機会がなかった40～57歳の男性を対象に、抗体検査を前置きした上での定期接種(第5期と呼ばれ、麻しん風しん混合ワクチンが使用される)が2019年4月から実施中なので、対象者はこの機会を活用してほしい。

表1 各週定点当たり報告数(全国)

No	疾病名	週	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎		0.73	1.10	1.14	1.30	4.27
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.37	0.57	0.53	0.62	2.09
3	突発性発疹		0.24	0.35	0.38	0.44	1.41
4	流行性角結膜炎		0.11	0.14	0.14	0.14	0.53
5	咽頭結膜熱		0.08	0.09	0.08	0.08	0.33
	水痘		0.07	0.09	0.09	0.08	0.33

# 県内情報

## 1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の5月の上位6疾患の合計は9.67で4月の4週間換算値13.74と比べて減少した（表2）。その理由は、全国と同様で、新型コロナ効果による自粛や衛生管理によるのであろう。実際に上位6疾患のうち2位のマイコプラズマ肺炎以外は全て減少した。そのため、主として感染症を診る小児科外来では受診者が激減している。

1位は感染性胃腸炎で3.61（同2位4.26）と減少し全国よりも少なかった。2位はマイコプラズマ肺炎で1.76（同4位1.41）と増加し、全国よりも多かった。3位は突発性発疹で1.54（同3位1.72）とわずかに減少し、全国と同等だった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.50（同1位4.40）と減少し、全国よりも少なかった。5位は手足口病で0.72（同7位0.85）とわずかに減少したが全国よりも多かった。6位は伝染性紅斑で0.54（同6位0.90）と減少したが全国よりも多かった。

COVID-19は、高知県では、2月29日～3月8日に12例が報告され、その後19日間は報告が途絶えていた。県内患者発生第2波は3月27日に始まり、連日新規患者が報告され4月29日までに62例が加わり、合計74例になった。4月16日から5月14日まで本県を含む全国に緊急事態宣言が発せられた。高知県は5月14日以降に、学校、公共機関、飲食等の活動が再開されたが6月7日の時点まで患者発生はなく、本県における第3波は到来していない。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	19週	20週	21週	22週	計
1	感染性胃腸炎	0.54	0.89	1.36	0.82	3.61
2	マイコプラズマ肺炎	0.00	0.38	1.13	0.25	1.76
3	突発性発疹	0.39	0.29	0.43	0.43	1.54
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25	0.21	0.61	0.43	1.50
5	手足口病	0.07	0.04	0.36	0.25	0.72
6	伝染性紅斑	0.18	0.11	0.11	0.14	0.54

## 2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

## 3. 主な疾患の発生状況

3月、4月に続いて5月もCOVID-19流行のため、それ以外の病原体検出が中断されており、データなしとなっている。

### 1) インフルエンザ

報告数 0名（4月 4名）。コロナ効果による自粛も手伝い小さな流行に終わり終息した。

### 2) 咽頭結膜熱

報告数 13名（4月 18名）。例年並の報告数である。幡多、須崎、高知市、中央東から表記の順に多く報告があった。

### 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 42名（4月 154名）。2019年9-11月は、この時期として過去10年で最高の報告数で推移し、12月は2015年に次いで2番目、2020年1月は最多、2月は2番目の多さだったが、3月4月と減少し例年並みに落ち着いた。安芸以外の県下全域から報告され、特に幡多、高知市、中央東から報告が多かった。

### 4) 感染性胃腸炎

報告数 101名（4月 149名）。もともと少ない数字で推移し、2月に増加して平年並みとなっていたが、3月以降は、過去10年で最低の報告数で推移している。県下全域から報告があり、特に安芸、幡多、高知市、中央東の順に多かった。

5) 水痘

報告数 6名(4月 37名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。高知市、中央西から表記の順に多く報告された

6) 手足口病

報告数 20名(4月 30名)。2019年2月に流行が終息していたが、5月から流行が始まり大流行となった。8月以降は減り続けていたが12月は横ばい、1月、2月と減少を続け終息に向かうかとみえたが3月はわずかに増加、4月は横ばい。5月は再び減少に転じた。中央西以外の全域で報告されたが、特に多かったのは高知市である。

7) 伝染性紅斑

報告数 15名(4月 31名)。2019年7月以降は多い報告数で推移している。特に10月は過去10年間で最大の報告数(時期を問わず)を記録した。幡多、中央東、高知市から表記の順に多く報告された。

8) 突発性発疹

報告数 43名(4月 60名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 4名(4月 2名)。2019年は6月から流行し、8月に減少に転じていたが、9月は再び増加し、10月以降減少した。中央西、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 7名(4月 10名)。須崎、中央西、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 1名(4月 20名)。2019年も前年同様に流行開始が早く、8月の報告数は2017年以降、270名、126名、233名と多い数字で推移し、従来に比べて流行時期が1カ月程度早まる傾向が続いた。11月は激減したが12月以降は小幅な増加がみられたが3月以降は減少しつづけている。須崎から1名の報告があった。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名(4月 1名)。高知市から1名のみが報告された。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(4月 0名)。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年6名、2018年5名、2019年2名と減少傾向である。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は皆無であり、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(4月 0名)。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年は0名と報告が少ない。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 14名(4月 14名)。高知市、安芸、中央東、幡多から報告された。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 17名(4月 14名)。平年並の推移である。幡多、高知市、中央東、安芸の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(4月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例、2018年は1例、2019年は2例の報告があり、2020年は0例である。

高知県感染症発生動向調査部会  
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和2年5月）

類型	病名	報告月					総計
		1月	2月	3月	4月	5月	
2	結核	5	5	8	3	8	29
4	重症熱性血小板減少症候群			1	1	1	3
	日本紅斑熱				5	6	11
	レジオネラ症	1					1
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		2		1	4
	急性脳炎		1				1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1
	後天性免疫不全症候群	2				1	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症					1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	1	2			8
	水痘(入院例に限る)	1				1	2
	梅毒	1		3	3	3	10
	破傷風		1			1	2
	百日咳	9	8	7	4	1	29
指定感染症	新型コロナウイルス感染症			12	36	26	74
	総計	26	16	35	52	50	179

# 高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2020年

5月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ									4	75
小児科	咽頭結膜熱		1	2		2	8	13	18	77	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		10	16	1	2	13	42	154	372	
	感染性胃腸炎	12	24	35	6	2	22	101	149	652	
	水痘			5	1			6	37	46	
	手足口病	1	3	14		1	1	20	30	55	
	伝染性紅斑		2	2			11	15	31	45	
	突発性発疹	1	6	24	7	3	2	43	60	61	
	ヘルパンギーナ		1	2	1			4	2	10	
	流行性耳下腺炎		1	2	2	2		7	10	4	
	RSウイルス感染症						1		1	20	32
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	1	6	
STD	性器クラミジア感染症			1				1	2	5	
	性器ヘルペスウイルス感染症						1	1			
	尖圭コンジローマ		1					1	2		
	淋菌感染症			1				1			
基幹	細菌性髄膜炎										1
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎	1	1	11			1	14	14	18	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										1
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに 限る)									1	30
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	11			3	17	14	25	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		16	52	127	18	13	62	288	549	1,515	
前月		28	85	257	54	42	83				
前年同月		68	281	787	98	73	208				
小児科定点数		2	7	9	3	2	5				

# 高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2020年

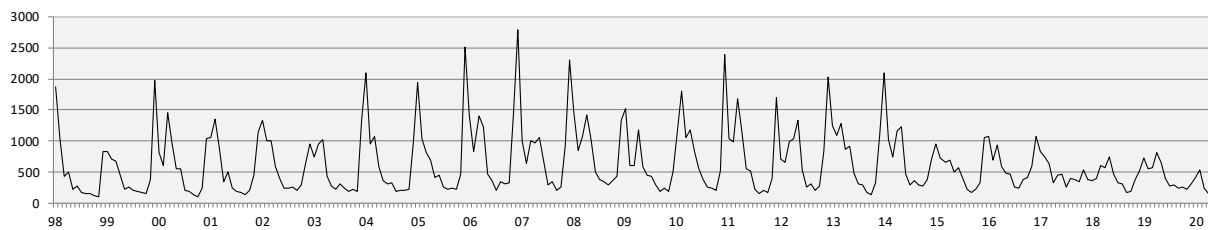
5月

定点当たりの人数

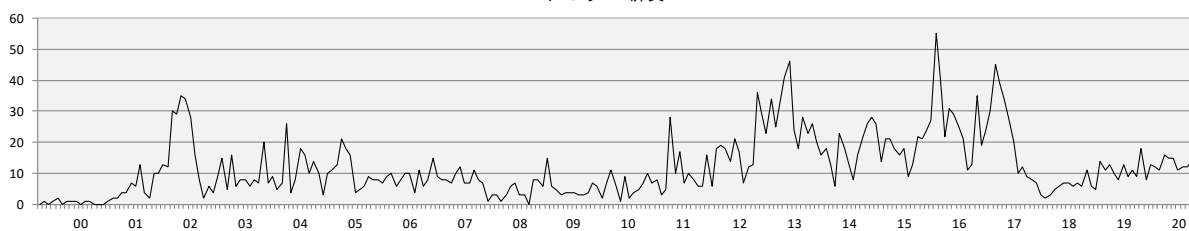
定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ								0.09	1.57
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.22		1.00	1.60	0.47	0.64	2.56
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.42	1.77	0.33	1.00	2.60	1.50	5.50	12.40
	感染性胃腸炎	6.00	3.43	3.89	2.00	1.00	4.40	3.61	5.32	21.73
	水痘			0.55	0.33			0.23	1.33	1.53
	手足口病	0.50	0.43	1.55		0.50	0.20	0.72	1.06	1.83
	伝染性紅斑		0.29	0.22			2.20	0.54	1.12	1.50
	突発性発疹	0.50	0.86	2.67	2.34	1.50	0.40	1.54	2.15	2.03
	ヘルパンギーナ		0.14	0.22	0.33			0.15	0.08	0.33
	流行性耳下腺炎		0.14	0.22	0.66	1.00		0.25	0.36	0.13
	RSウイルス感染症						0.50	0.04	0.72	1.07
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	2.00
STD	性器クラミジア感染症			0.50				0.17	0.33	0.83
	性器ヘルペスウイルス感染症						0.50	0.17		
	尖圭コンジローマ		0.50					0.17	0.33	
	淋菌感染症			0.50				0.17		
基幹	細菌性髄膜炎									0.13
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎	1.00	1.00	2.20			1.00	1.76	1.76	2.26
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.13
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)								0.13	3.76
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.00	2.00	2.20			3.00	2.13	1.75	3.13
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		7.00	6.85	11.31	5.99	6.50	11.40	9.05	18.37	46.68
前月		13.50	11.28	25.42	17.86	21.00	16.60			
前年同月		32.25	38.37	64.60	30.51	33.25	39.66			

### 注目される疾患別月別推移

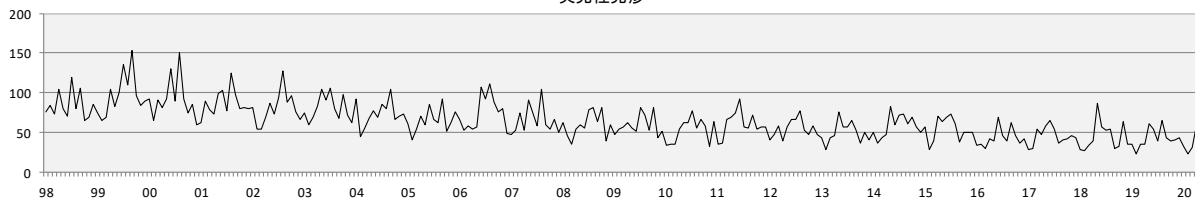
#### 感染性胃腸炎



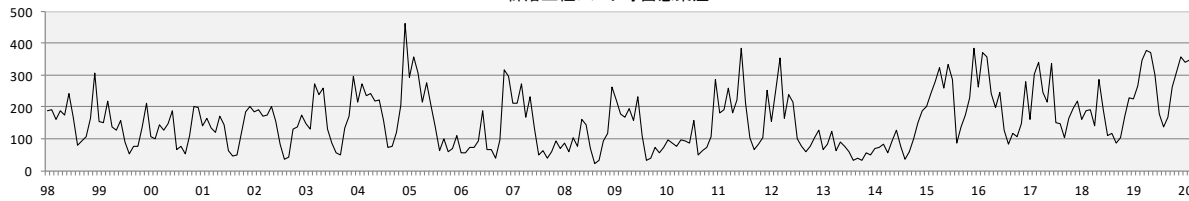
#### マイコプラズマ肺炎



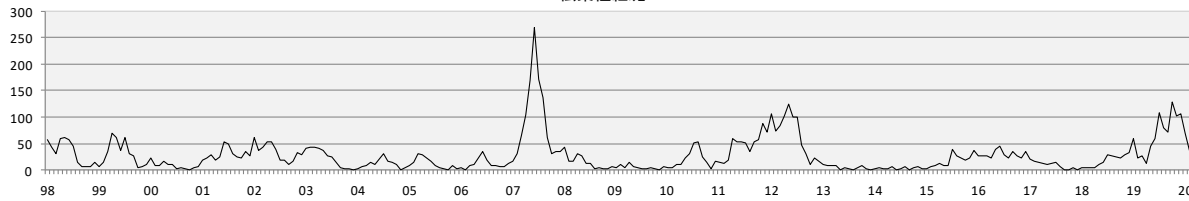
#### 突発性発疹



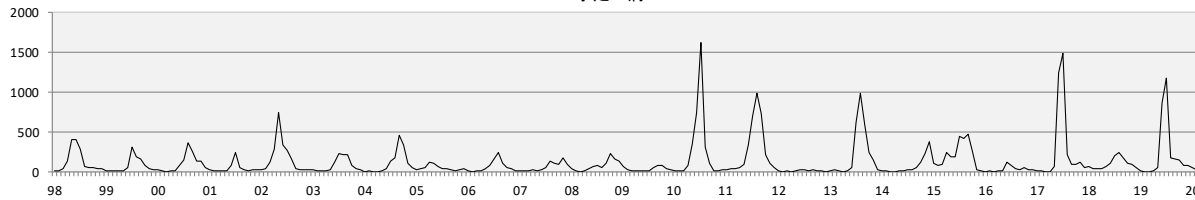
#### A群溶血性レンサ球菌感染症



#### 伝染性紅斑



#### 手足口病



類型	病名	報告年																				総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	
2	結核										131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	29	1779
	計										131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	29	1779
3	コレラ	1					1							1											3
	パラチフス	2																							2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2					27
	腸チフス	1							1										1				1		4
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9			206
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10			242
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1				3					3	1				2	34
	Q熱	1	1	2				1																	5
	オウム病			1		1																1			3
	つつが虫病			9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3		90
	マラリア									2															4
	レジオネラ症		2			1		1																	4
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	11	183	
	日本脳炎	1	1	1						1			1	1											6
	レプトスピラ症											1		4	2	1					1				9
	E型肝炎											1			1								2		4
	デング熱											1											2		9
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	3	46
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	15	467	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3			47
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1		7	19	21	22	21	20	114
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																						1	2	3
	急性弛緩性麻痺																								3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				2	1	1		32
	ジアルジア症		1	2	1									1	1							1			8
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1																		1	1		5
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1			2	1	21
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1	1	3		1		1	3	5	6	2	1		27
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	3		78
	侵襲性インフルエンザ感染症																1	5	3	4	7	3	1		24
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	16	18	14	22	8	95
	水痘(入院例に限る)																	2	1	1	3		2		9
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5				9
	髄膜炎菌性髄膜炎									1															1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	2	34	
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	10	206	
	百日咳																								374
	麻疹										5											173	172	29	
	風しん										1	1				4	9	1				3		19	
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	61	1169	
指定	新型コロナウイルス感染症																							74	74
	計																							74	74
新型	新型インフルエンザ													34											34
	計													34											34
動物	鳥インフルエンザ													1											1
	計													1											1
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	179	3766	